

発行 熊本県労働者福祉協議会
事務局 熊本市九品寺1丁目17-9

発行者 河瀬和典
熊本県労働会館内 TEL 096-372-0915

編集者 梅木一美
FAX 096-372-0600

活力ある福祉社会をめざして運動推進を

5月15日、節目となる第40回通常総会を開く

40年目という節目の年を迎えた熊本県労働者福祉協議会の「2006年度第40回通常総会」が、5月15日午後、熊本交通センターホテルで開かれ、来賓や代議員など、約80人が出席しました。

赤塚副会長の開会のあいさつの後、議長に連合熊本の阿金副会長を選出し、河瀬会長が要旨次のようなあいさつをしました。

「小泉構造改革は、安全神話を崩壊させてしまった。私たちは労働運動と福祉運動を車の両輪として運動を進めてきたが、組織減少によりなかなか思うようにいかない状況になっている。本来ならば働く人々が苦しい時ほど、福祉運動が前進しなければならないのだが、そうっていない。もう一度原点に戻って福祉運動を考えていかなければならない。中央では労働団体と福祉事業体のネットワークづくりが論議されている。熊本でも議論を深めていこう。本総会は40回目の節目の総会なので、記念講演会も開催する。ぜひ学んで今後の運動に生かしてほしい」。

続いて来賓として熊本県商工観光労働部労働雇用総室の松永副総室長と、熊本市経済振興部の本田商工労政課長が、それぞれ知事と市長の祝辞を代読しました。

総会は成立を確認した後、梅木事務局長が05年度活動経過と会計決算を報告し、浦川監事が監査報告をおこない満場一致で承認しました。

また、05年度の収支剰余金の処分、06年度の活動方針(案)、同予算(案)についても承認、決定しました。

今回は40回総会ということから、三



▲あいさつする河瀬会長

役2期以上、役員5期以上務めた人を功労者として表彰(地区労福協にも適用)することとなり、対象者13人を代表して人吉球磨地区労働者福祉協議会の小川会長に表彰状が贈られました。

すべての議事を終了した後、椎葉副会長が「人気番組“笑点”が40周年を迎えた。笑いの絶えない番組だが、本来、労働組合も福祉事業体も職場も家庭も、人間としての安らぎを求め、笑いが絶えないことが人間の姿なのだが、二極化や格差拡大で厳しい状況となっている。人間らしさを求めて向こう1年間の運動を取り組もう」と閉会の言葉を述べ総会を終了しました。

活動の基調

県労福協は「みんなで、生きる、働く、暮らす、ケアする地域福祉」を創



▲代表して功労者表彰を受ける小川祐弘氏(左)



▲議長を務めた阿金氏



▲松永県雇用副総室長



▲本市商工労政課長



▲梅木事務局長



▲椎葉副会長

るため、政策・制度の改善を図るとともに、自主福祉活動の充実強化に務めることと、労働者の生涯福祉の前進と、そのために連合熊本や福祉事業体、各地区労福協との連携強化などを「活動の基調」として『活力ある福祉社会・地域共生で暮らしに夢を』を目標に取り組んでいきます。



▲総会に出席した代議員の皆さん

労働組合における自主福祉活動の必要性

講師 労働者福祉中央協議会 笹森 清会長

第40回通常総会という節目の開催を迎えたことから、総会終了後「記念講演会」を催しました。

講師は元連合会長で、現在、労働者福祉中央協議会会長を務める笹森清さん、笹森会長は何度か熊本に来られたこともあり、出席者も熱心に聴講しました。笹森会長は「あちこちから講演依頼があり出向いているが、労働組合に対するイメージが、私たちとは違うし、六本木ヒルズで働いているIT企業の皆さんには、経営者と株主のことだけで労働者という意識が無い」と前置きしながら、90分間講演しました。

戦後の動きを検証

■2000年をピークに15～64歳の生産年齢人口が下降線をたどり、65歳以上の老年人口が増えている。高度経済成長時代、お金が必要だった年少人口（教



▲熱心に聞き入る皆さん

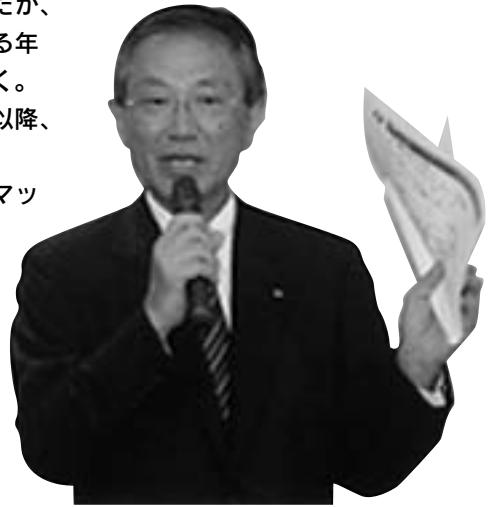
育、育児）と老年人口が少なかったが、右肩下がりの今はお金を必要とする年少人口と老年人口が多くなっていく。

■政治は93年の細川連立政権誕生以降、政権も政党も変化、変質している。

■戦後の労働運動は、米占領軍のマッカーサーの指示で民主化5大政策（女性の参政権、労働3法の制定、学校教育の民主化、民権・人権の回復、経営の民主化）が進められ、自民、社会の2大政党による55年体制と、生産性3原則（労使協議の充実、雇用の維持、公正な成果配分）で、日本は進んできた。

■しかし、小泉政権発足以後の5年間で、グローバルスタンダードと言いながら実はアメリカのスタンダードを導入してきた。結果、合理化、効率化、国際化、リストラが進められ、所得や労働のあり方、中央と地方など格差が拡大している。日本は戦後「働く人を大切にする」「従業員主権主義」が働いていたが、今は「株主重視」に変化し、アメリカのハゲタカファンドに喰われている。

■90年代からアメリカは日本に対し年次改革要望書を突きつけ、規制緩和や自由化、民営化を迫ってきた。その結果は小泉政権5年間の政治となって具



現化している。

■社会も少子高齢社会、IT社会、グローバル社会といわれるように、この10数年変化している。

■今後は高齢者や女性の活用、352万人といわれる身障者の皆さんの活用が課題だ。そのためにも政治、経営、労働のベストミックスが必要となる。

■医療費アップ、増税など国民負担が増えている。公助は破綻し、自助は限界がある。今後は共助が柱となる。NPOと連携しながら、地域社会と共生する福祉運動の追求をしていこう。

■健康、人、街づくりのネットワークを労福協や連合が作り出していこう。

熊本県の安田副知事らが出席

40回総会記念のレセプションを開く

総会、記念講演会終了後、交通センターホテルで「第40回記念レセプション」を開催しました。

県労福協の副会長を務める連合熊本の中野事務局長が開会のあいさつに立ち「笹森会長の講演を聴き、やらなければならないことがたくさんある。連合と労福協がさらに連携を強化し、地域社会と連携していく運動を推進しよう」と訴えました。

また、河瀬会長が「本日は産別、地域の代表の皆さんが、笹森会長の話にお互いの想いを一致させることができ

たと思う。さらなる前進に向けて頑張ろう」とあいさつ、また、笹森会長が「労福協のマークは人と人とを結ぶ意味だ。普通の人々が安心して生活できるようにしていく、それが私たちの運動だ。一つひとつ積み重ねていこう」とあいさつしました。

来賓として熊本県の安田副知事が、「県労福協のこれまでの歴史と活動を評価し、今後に期待する」旨の潮谷知事の祝辞を代議し、全労済熊本県本部の西岡理事長の発声で乾杯し、懇親と交流を出席者は深め合いました。



▲祝辞を述べる安田副知事



▲全労済熊本の西岡理事長の発声で乾杯

全労済熊本「新会館」が落成

建物の老朽化が進んだことから、全労済熊本県本部は数年前から会館建設委員会を設置し、検討を進めてきました。一昨年の通常総代会で新会館建設が決まったことから、設計を経て昨年7月に工事着工、今年4月に竣工し、4月24日から業務を開始しました。

新会館は鉄筋コンクリート4階建てで、バリアフリー化とユニバーサルデザインが随所に盛り込まれ、ゆっくりとしたスペースを持つ1階お客様窓口や多目的トイレ、駐車場などが完備され、また、個人情報保護のセキュリティー対策、研修設備などをはじめ、2階にはマイカー共済熊本サービスセンターも入居し、多機能な会館となりました。

4月20日に竣工式とテープカットがおこなわれ、4月24日には県内各域から関係者約300人が出席して「落成祝賀会」が、ホテルニューオータニで開かれ、新たな出発を祝いました。



◀ 鉄筋コンクリート4階建ての新会館。下は4月20日の落成式・テープカット。



ろうきん 熊本地区

NPO助成フォーラム開



九州ろうきんは、九州全域でNPOを助成していく社会貢献活動を推進していますが、第3回目となる「ろうきん熊本地区NPO助成フォーラム」が4月22日、熊本市ニュースカイホテルで開かれ、150人が出席しました。

赤塚県本部長が、NPO助成フォーラムの意義を紹介した後、熊本地区の「NPO助成」を審査する7人の委員を代表して、審査委員長の花田熊本学園大学社会福祉学部教授が、審査の基準など論議の内容を報告しました。

結果、第3回目は「環境ネットワークくまもと」「くまもと障害者労働センター」「子守唄の里五木を育む清流川辺川を守る県民の会」「子育て談話室」など、福祉や環境、文化活動に取り組



むNPO12団体に助成していくことが決定し、赤塚本部長が12団体の代表に助成決定書と助成金を贈りました。なお、助成総額は200万円となります。

続いて第2回目の助成を受けた9団体を代表して「水俣教育旅行プランニング」の松永代表と、「トータル・ヘルス・ケア・コム」の小山代表が、この1年間取り組んできたことを報告しました。

松永代表は水俣市湯の鶴地区の環境学習プログラム創出による、地域の活性化事業を取り組んだ活動を、また小山代表は日赤時代の豊富な経験を生かした予防医学を柱とする“健康づくりの支援活動”について報告しました。終了後はレセプションを開きました。

喫煙

■小泉構造改革はなにをもたらしただのか、小泉政権5年間の検証というテーマで、マスコミは番組を作っている。言うところの「勝ち組・負け組の二極化」や「格差の拡大」に焦点を絞っている。しかし、経営者団体のリーダーであるトヨタの奥田会長は「格差はないと思う」と発言している。本当にそうだろうか。■某週刊誌が「日本全国『格差』の実態」を特集した。その一つに自殺が取り上げられている。年間3万人の自殺が8年も続いている。小泉内閣が発足して以降、自殺の動機は病苦でなく経済的理由が増加している。人



口10万人あたりの自殺者数ランキングは、冬場の仕事、出稼ぎがない秋田が1位、以下青森、岩手、島根、高知、宮崎と過疎化が進む県が多い。因みに熊本は20位だ。就学援助率のトップは大阪府、そして東京都、熊本は25位。保護者の年取ダウンや失業が原因だ。有効求人倍率では熊本は33位で、以下過疎地を抱える県が多い。貯蓄額ランキングも熊本は41位で低い。パートの時給になると熊本はケツから5番目の42位。給料ランキングは熊本は35位と低い。■週刊誌は大都市と地方では、貯蓄は4倍、賃金は1.5倍となっており、格差は想像以上に広がっていると指摘している。また東京都23区でも富有層と低所得者層の格差がこの5年間で急速に拡大しているという。80年代は皆が中流意識を持っていたのだが、生活の安全神話も…。

福祉のまちづくり

ボランティア活動スタート

熊本住宅生協が開発した熊本市秋津レークタウンでは、自治会、県労福協、連合熊本、ろうきんなどの福祉事業体、熊本学園大学、熊本大学、医療法人・熊本労安会などの組織的な承認を得て住民の自主組織として「福祉のまちづくり・生き生き夢くらぶ」を、2003年4月に発足させ、以来、子育て支援や高齢者支援、ふれあい活動を積み重ねてきました。

そして今年5月10日からは懸案事項だった「買い物・外出などのお手伝いボランティア」をスタートさせました。

少子高齢社会を迎えた今、この「福祉のまちづくり」は、住民相互が助け合う活動として注目されています。

2006年5月10日 ボランティア活動を開始

お買い物代行
お掃除代行
お洗濯代行
お荷物代行
お荷物運送
お荷物保管

秋津レークタウン 生き生き夢くらぶ

パークマンション田迎～平成けやき通り～



熊本市の好適地で新しい暮らしはじめませんか

好評発売中
〈モデルルームオープン〉

現地モデルルームへお越しください。(駐車場完備)

Access
田迎五丁目バス停まで
徒歩 (約40m)
約1分
交通センターまでバスで
計約15分

Shopping
ゆめタウンはませんまで
車で
約2分

平成けやき通りに順を向けた。
全邸南向き

Shopping
サンリブシティくまなんまで
車で
約2分

Medical
熊本中央病院まで
車で
約2分

お支払い例 Cタイプ103号室 3LDK 専用品付35.44㎡(約10.72坪) 販売価格2,130万円(税込) 販売ローン年利3年固定1.20%

現金 0円

ポーン払い (年2回) 99,963円

3LDK 2,130万円(税込) 4LDK 2,680万円(税込)

管理費・駐車場 すべて込みで 月々58,206円

◎上記金額は毎月支払い金額45,506円+修繕積立金(月)2,700円+駐車場(月)3,000円+ガスセキュリティ費用(月)500円を全て合計した金額です。

◎上記金額はあくまでも参考の金額です。◎上記金額は、建設中の物件の概算価格です。◎上記金額は、建設中の物件の概算価格です。◎上記金額は、建設中の物件の概算価格です。

パークマンション田迎～平成けやき通り～
お問い合わせ TEL 096-370-8067 FAX 096-370-8068
http://www.park-mansion.com

夏は涼しい北海道へ!

ジャルステージが主催する「家族の夏休み大作戦!北海道・沖縄」がおすすめ。3歳～11歳のお子様には「夏の思い出セット」、ウェットティッシュなどオリジナルグッズがついてます。体験学習型のプランやリゾート滞在型のプランも設定しており、家族みんなで北海道で過ごすのはいかがですか?

ファミリー&リゾート(トマム) 3日間 福岡発 4名1室の場合

大人 43,800円～78,800円
小人 上記料金より1,000円～2,000円引き

JALツアーズスペシャルルーム有り!(3ルーム限定) 設定ホテルは・ホテル日航アヌプリ・ホテルピアノ・アルファリゾートトマム・ザタワー・札幌北広島プリンスホテル など

人気の旭山動物園もありますよ!

同様に沖縄もございます。お問い合わせください。旅行企画・実施 株式会社ジャルツアーズ

お問合せは・・・ TEL (096)371-2022 FAX (096)363-2866

生協 法人 ユニオントラベル熊本 熊本市九品寺1丁目17-9 熊本県知事登録2-34号 総合旅行業務取扱管理者 松永 裕子

編集後記

熊本県労福協は、1954年に熊本県労働金庫が設立され、その後労金を核とする全労済・住宅生協・ユニオントラベル熊本など、労働者福祉事業体が順次設立されていきました。その間の1958年に総評・労働金庫・熊本県の三者によって「熊本県労働者福祉協議会」が設立されたのが、熊本県労福協のスタートです。その後幾多の試練を経て、1967年総評・同盟・中立労連のすべての労働者が参加し、福祉事業団体とともに新たな構成で「熊本県労働者福祉協議会」が再発足しました。それから数えて今回が40回という節目の総会となりました。いま労福協を取り巻く環境は大きく変化し、基本理念は変わらずとも、時代にあった運動が求められているといえます。笹森中央労福協会長の講演は、今後の活動に生かしていきたい教唆に富んでいました。(U)